

平成30年度
各委員会事業活動報告書



全国理美容製造者協会

全国理美容製造者協会

平成30年度事業活動報告(調査委員会)

	事業名	時期	概要
1	理美容商品等の市場調査	平成30年4月～ 平成31年3月	NBBA会員会社のカテゴリー別商品出荷ベースによるマーケットシェアの分析を行う。
2	サロン女性ユーザー意識NET調査(秋期調査)	平成30年10月	<p>サロンユーザー(女性)の現利用サロンの評価、サロン選択行動、ヘアスタイル意識等を調査する。</p> <p>調査方法:インターネット調査 調査エリア:全国 対象者:15歳～69歳までの女性 集計サンプル数 5,300 10代を300サンプル 60代を1000サンプルに変更</p> <p>※合計については、サンプル数のみの集計を行う方式から、人口構成比でウェイトバックをかけ集計する方式 クロスマーケティングアンケートモニター会員 ※10代については、マーシュからも取得</p> <p>調査期間:2018年10月5日(金)～10月11日(木) 調査実施機関:(株)H. M. マーケティングリサーチ</p>
3			

全国理美容製造者協会

平成30年度事業活動報告(アカデミー委員会)

	事業名	時期	概要
1	臨時セミナー開催	平成30年2月12日	<p>目的：美容環境や労働環境における課題に関する研究をスポット的に実施。</p> <p>第1部 環境セミナー テーマ：「廃プラスチックの今後」 講師：週刊循環経済新聞 環境編集部 部長 中西 康文氏</p> <p>第2部 経済産業省セミナー テーマ：「サービス産業の生産性向上に関する施策について」 講師：経済産業省 商務・サービスグループ サービス政策課 平川 怜奈氏</p> <p>第3部 流通セミナー テーマ：「最新流通動向と課題」 講師：明治大学専門職大学院 グローバル・ビジネス研究科 教授 橋本 雅隆氏</p> <p>会場：タカラ椅子会館 5階 TBホール 93名参加</p>
2			
3			

全国理美容製造者協会

平成30年度事業活動報告(環境委員会)

	事業名	時期	概要
1	他業種の無駄をなくす活動の研究	平成30年4月～ 平成31年3月	・廃棄物を処理するというより、廃棄物を無くすことで廃棄物を減らすために他業種の取組みを研究し、美容業界でも取り組めないかを研究する。
2	廃棄物処理のリスク管理	平成30年4月～ 平成31年3月	・廃棄物処理に対する行政の対応の研究を行う。
3			

全国理美容製造者協会

平成30年度事業活動報告(広報委員会)

	事業名	時期	概要
1	NBBA活動の認知向上	平成30年4月～ 平成31年3月	<p>◆目的「NBBAの活動自体の認知向上：継続事項」 サロン市場への真の貢献に繋がるようNBBAの活動を継続的に発信。協会活動の理解の拡大と認知向上を目指す。 メディアや団体との新たな取り組みの受け皿となるべく、Webコンテンツとシステムの強化を図る。</p> <p>◆活動内容</p> <p>①HPの内容充実とメンテナンス強化 ・サロンユーザー調査の更新。 ・事業報告書、事業計画書の更新。 ・サロンユーザー調査データのハイライトビジュアルの更新。</p> <p>②サロンユーザー調査の活用強化 ・NBBA会員社員、メディア、業界団体との良好な関係作りと認知強化の為、「サロンユーザー調査」の”表1、3、4”をPRの誌面として活用。印刷部数も増加し、紙媒体としてより広く、積極的なNBBA活動の可視化を図る。(第8回ABEX及び設立20周年感謝の集いにて来場者に配布) ・業界内外メディア41社、業界35団体に広報、調査委員会連名で「サロンユーザー調査」と告知チラシを送付する(6月)。 ・「美容の新しい価値」シンポジウムで「サロンユーザー調査」「ハイライト版」を参加者に配布する。</p> <p>③データから見る「ユーザー調査データ読み解きトピックス」の継続</p>
2	ホスティング	平成30年4月～ 平成31年3月	<p>◆目的「サーバーの安定運用」</p> <p>①ホスティング(通年) ・問題なく運用する。→問題なく運営しています。</p>
3			

全国理美容製造者協会

平成30年度事業活動報告(流通委員会)

	事業名	時期	概要
1	業界標準流通システム構築事業	平成30年4月～ 平成31年3月	<p>目的: 業界内の標準化をはかり、業界トータルの情報システム化とコストダウンの推進し、業界全体の効率UPを図る。</p> <p>活動 : 「NBBA楽々注文ねっと」サービス内容拡充及び仕様改善</p> <p>① サーバOSの保守終了を見据えた見直し検討を行う。</p>
2	流通システム研究	平成30年4月～ 平成31年3月	<p>目的 : 理美容業界内の物流システム全般を考察し、業界全体の効率化に寄与する仕組みの研究を行い業界の方向性に何らかの判断情報を提供できるようにする。</p> <p>活動 : 物流システム研究</p> <p>①. 共同配送・共同倉庫の実現に向けた研究調査 加盟各社の倉庫・運送形態や運用コストの調査・研究を行う。</p>
3			